

# 寸言

一般社団法人日本航空宇宙工業会  
常務理事

山岡 建夫



## 就任にあたって

本年5月の当工業会第9回定時総会及び第39回理事会において選任いただき、山北前常務理事の後を引き継ぐことになりました山岡建夫です。どうぞよろしくお願い致します。

私は、昭和59年4月に防衛庁(当時)に入庁し、同年8月に当時の技術研究本部第3研究所(現在の防衛装備庁航空装備研究所)に配属されました。以来主に誘導武器の研究開発に従事して参りました。その間、各種誘導武器の発射試験に参加し、航空装備研究所新島支所、米国ニューメキシコ州のホワイトサンズ試験射場やハワイ州カウアイ島の太平洋ミサイル射場等を訪れることができたのは、貴重な経験でした。昨年4月に防衛装備庁電子装備研究所に異動となり、宇宙・サイバー・電磁波の各領域を含む自衛隊の電子装備に関する研究を所掌致しました。

さて、大変残念なことに、今年7月に開催が予定されていた英国のファンボローエアショーは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。また、既に当工業会会報6月号でお知らせいたしました、今般の東京オリンピック・パラリンピックの開催延期を受け、2021年国際航空宇宙展(JA2021)の会場として予定していた東京ビッグサイトの使用制限期間が、JA2021の設営準備及び会期と重複することが判明しました。このため、JA2021については、開催を延期することになりました。新たな開催日程については、決定次第HP等を通じて速やかにお知らせいたしますので、よろしくお願い致します。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、世界中で人的移動が制限されています。そのため、旅客・運輸業界を始め観光業界も大きな被害を被っています。ワクチンや治療薬が開発されて、安心して対面での活動ができるようになるまで、しばらく時間が必要となります。他方、これを機にリモートワークやインターネットバンキングが一気に普及し、働き方が大きく変わりつつあります。「アフターコロナ」の社会や生活がどのようになるのかは、まだはっきりとは見えませんが、これまでとは異なるものになりそうです。

世界での新型コロナウイルス感染が収束を迎え、当工業会会員の皆様の諸活動が、一日も早く従来の活況を取り戻す日々が訪れることを心から願っております。

航空宇宙産業は、高空や宇宙空間などの過酷な環境において、安心・安全に動作する資機材の製造、運用及び修理等を対象とするため、先進技術の集積が必要です。このため、他の産業への技術波及効果が大きく、関連産業分野のすそ野が広いという特徴があります。また、わが国の安全保障に直結する戦略的な産業であり、国民生活の利便性向上にも大きく寄与していると認識しております。このようなわが国にとって重要な産業を支える航空宇宙工業会の常務理事に就任するにあたり、微力ではありますが、航空宇宙産業のさらなる発展に貢献する所存です。今後の皆様からの御指導御鞭撻をよろしくお願い致します。